



うちどく

美里中学校区教育を考える会
紀美野町立美里中学校・育友会

家読のススメ



「家読(うちどく)」とは、学校で行われている「朝の15分間読書(朝読(あさどく))月・火」の習慣を家庭にも取り入れて、読書の楽しさを家族で味わおう・家族のコミュニケーション方法として読書を活用しようという読書スタイルの1つです。「学力は読書に比例!」「学力向上の決め手は読書量!」と言われますが、全国学力・学習状況調査では、本校生徒は家での読書はほとんど行っていない現状です。家で読書をするように言っても、なかなか子どもだけでは難しいものです。【家庭の協力=読書をする環境】が整わなければできません。そこで家読です。

○家読(うちどく)ってどうやるの?

基本は「家族で同じ空間で本を読んで、感想を共有する」だけ!

同じ本を読む・おすすめの本を教えあう・読んでもらう・自分で読む・感想や意見は話しあう・家読ノートを用意して記録する…

それぞれの家庭に合ったやり方で、本をきっかけに家族で会話ができればそれが「家読(うちどく)」になります。

○家読(うちどく)って何がいいの?

家族それぞれの立場で気持ちを話してあげる、誰かが話したいサインを出したら聞いてあげるというように、「本を通してゆったりした家族のコミュニケーションをとることができる」のが、家読の魅力です。

無理に感想や意見を言わなくちゃ…同じ気持ちにならなくちゃ…と思わなくても大丈夫です。大切なのは、「こんなふうに思った」を受け止めることです。

「家読で培われる4ステップの学力」

①話に出会う段階

- ・**読む力**…子どもが家族に読み語りをおこなう。また、交代で読む。など
- ・**聴く力**…家族が子どもに読んであげる。
- ・**再読する力**…繰り返し読むことで忘れたことを思い出したり、新たな発見をしたりする。

②話の内容から考えを持つ段階

- ・**理解力**…登場人物や場面の移り変わりから、話の内容を理解する。
- ・**思考力**…登場人物の言葉や行動から、登場人物の考えや話のテーマを考える。
- ・**想像力**…文中の言葉や絵から、話を映像化する。

③思いを他者に伝える段階

- ・**表現力**…考えたことや伝えたいことを、ノートなどに書き表したり、家族に話す。



④思いを交流させる段階

- ・**コミュニケーション力**…言葉を交わすことで、コミュニケーションするよさを感じる。
- ・**言葉を磨く力**…家族の思いを聴いたり家族に思いを伝えたりすることを通して、的確な表現や適切な言葉を身につける。
- ・**自己決定をする力**…同意・比較・反論をとおして自分の思いを確実にする。

平成25年度、「美里中学校区の教育を考える会」を立ち上げ、紀美野町保健福祉課、教育委員会、下神野小学校、神野保育所、美里中学校で協議してまいりました。平成26年度保・小・中で共通して取り組めることは、「学力の土台となる読書」「読書習慣は小学校・保育所が鍵」ということから『読書』になりました。

保健福祉課では、生まれた時から高校卒業するまで、家読を記録として残せるよう、『本との出会い』ファイルを作成して、この読書の取組を紀美野町あげて取り組もうと応援してくれています。